

## 1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった、心身ともに健康な中学生の育成  
 「生徒行動指針」 ○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	義務教育である小中学校で一番に身に付けさせなければならないことは『生きる力』の育成である。大海原を自らの足で歩む力である。そのために必要な経験の場を、意図的・計画的に提供し、望ましい集団活動を通して自己及び集団の向上を図る意識を育む。また、そのために必要な基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身に付ける学校を目指す。
○児童・生徒像	失敗を恐れずに何事にも挑戦し、「学び」を日常の生活と結びつけ、自分の新たな可能性を見いだせる生徒 <「生徒行動指針」に基づいた具体的な生徒像> ○病気に負けない、心身ともに健やかな体を身に付けた生徒 ○習得した知識を実生活に生かすような行動を自ら行い、意欲的に経験を積み上げていく生徒 ○自分の力を学級や学年・家族や地域のために進んで役立てようとする生徒
○教師像	○生徒・保護者・地域の信託に応える教師 ○自らの生き方をもって生徒を導く教師 ○組織として迅速に右こくことができる教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1 学校の現状

- 1) 生徒は元気にあいさつができ、授業態度もよく落ち着いた学校生活を送っている。
- 2) これまで十二中が築いてきた伝統をしっかりと継承している。
- 3) どの生徒も授業に真剣に取り組み、授業が楽しいと言っている。
- 4) 学校行事を工夫して行い、自らの役割を意識した取り組みができている。行事の後の達成感も高い。

### 2 前年度の成果

- 1) 区学力調査における3科平均通過率が63.7%から63.9%と僅かであるが増加した。
- 2) 「スマイルルーム」の運営が軌道に乗り、多くの不登校生徒が教室復帰を果たした。
- 3) コロナ禍にもかかわらず、「サタデースクール」を継続・実施できた。

### 3 前年度の課題

- 1) 若手教員の割合が大幅に増え、授業力の向上を急がなければならない。
- 2) コロナ禍による休校や短縮授業により、丁寧に学習を進めることが難しかった。
- 3) 学習した知識を定着させるような授業展開を考えていく必要がある。
- 4) 不登校生徒対応の更なる充実。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	特別活動の充実とキャリア教育の推進	◎	◎	◎	◎	◎
3	不登校・不適応対応	◎	◎	◎	◎	◎
4	生活指導の充実	◎	◎	◎	◎	◎

## 5 令和4年度の重点目標

<b>重点的な取組事項－1</b>		学力向上アクションプラン							
<b>A 今年度の成果目標</b>		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の確かな定着と家庭学習の質的向上		令和4年度の目標通過率 65.0%				自己評価の際に記入			
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	補充・補習 の充実	国語 社会 数学 理科 英語	通年	<b>【取組内容】</b> ・放課後に習熟の不十分な生徒を対象とした補習授業の実施 ・教員の計画の元、帝京科学大学の学生インターンを活用し、マンツーマン指導による補習の実施。 <b>【ねらい】</b> ・基礎学力の定着 ・得点力の向上 <b>【目的】</b> ・学習のつまずきの解消 ・学習内容の活用力向上	足立区 学力調査	区学力調査正答率 国語 70%以上 数学 55%以上 英語 55%以上	自己評価の際に記入		

2 継続	授業改善	全教科	通年	<p><b>【取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業展開を全教科で統一し、導入5分・展開35分・まとめ(振りかえり)10分とし、全教科で実践する。</li> <li>・指導力向上中核校の研究で策定した年間指導計画にしたがい、カリキュラムマネジメントを意識した授業の実践</li> </ul> <p><b>【ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間1時間の授業における生徒の学びの確実な定着を図る</li> <li>・他教科での学習内容を全教員が意識して指導に当たることで、生徒の学びを深める。</li> </ul>	区学力調査の学習や生活についてのアンケート	<p>『授業が楽しい』の設問に対する肯定的回答 90%以上</p> <p>『授業がわかりやすい』の設問に対する肯定的回答 75%以上</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
3 継続	家庭学習の習慣化	全教科	通年	<p><b>【取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習ノートを毎日提出</li> <li>・生徒の習熟の程度に応じて、まず提出することから内容の充実を図るまで、到達目標を変えて取り組ませる。</li> </ul> <p><b>【ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化</li> <li>・小学校からの学びの継続</li> </ul> <p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎、基本の確実な定着</li> <li>・学習の質の向上</li> </ul>	生徒による授業アンケート	提出率70%以上	

4 継続	学習 コン テスト	国語 数学 英語	各教科 年1回	<b>【取組内容】</b> ・国数英の3教科で基本的な知識を問う問題に取り組みさせる。 <b>【ねらい】</b> ・学習意欲の喚起 <b>【目的】</b> ・成功体験の積み上げ ・自己肯定感の涵養	3教科の学習 コンテスト	各教科の合格率 国語 90%以上 数学 80%以上 英語 80%以上	<b>自己評価の際に記入</b>
5 継続	サタデー スクール	全教科	通年	<b>【取組内容】</b> ・土曜授業のない土曜日に自学自習による補習 <b>【ねらい・目的】</b> ・自学自習の習慣を身に付けることで家庭学習の習慣化を補完する。	サタデースク ール参加登録 者数と出席状 況	生徒登録数 30名以上  年間延べ参加 人数300名 以上	

<b>重点的な取組事項－2</b>		特別活動の充実とキャリア教育の推進			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
自己肯定感と自己有用感の高揚を図り将来への希望を抱く		Hyper-Q Uと区学力調査の学習意識調査	<b>自己評価の際に記入</b>		
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
生徒の自尊感情を高める指導の推進	Hyper-Q Uにおける非承認群15%以下	・全教員の学級経営力の向上と、全学級における集団活動による経験の場の設定 ・各学年で統一した学級活動の実践	<b>自己評価の際に記入</b>		

自己有用感の涵養	区学力調査の学習意識調査において、『今の学級をよりよい学級にしたいと思う』と『学級の間はお互いに協力し助け合っていた』との設問に対する肯定的な回答が、どちらも75%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の係活動を中学生の発達段階に応じて発展的に継承し、ひとりひとりの生徒に自己の集団における役割を自覚させる。</li> <li>・生徒相互の良さを認める活動の充実</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
将来への希望	区学力調査の『将来の夢がある』との設問に対する肯定的な回答が70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教育活動においてキャリア発達を促す教育の実践</li> </ul>	

<b>重点的な取組事項－3</b>		不登校・不適応対応			
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
不登校出現率の減少	不登校出現率4%以下	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>			
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
不登校・不適応生徒を受け入れる学級の雰囲気づくり	Hyper-QUにおける学級満足度55%以上	指導力向上中核校としての研究を通して学級の中に生徒の居場所を確保するとともに、各学級・学年で生徒の活躍する場を設定し、	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		

不登校生徒に対する 教室復帰支援	不登校出現率4.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SC・SSWと連携し、必要な関係機関との連携を図りつつ、生徒の教室復帰を支援する。</li> <li>・スマイルルームを有効に活用しつつ、教室復帰への足がかりとする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
不登校・不適応生徒 への組織的な対応	特別支援教育推進委員 会年35回開催	毎週木曜日の4校時に特別支援委員会を開催し、不登校・不適応生徒の情報を共有し、支援を必要とする生徒へは全校で組織的に援助する。	

<b>重点的な取組事項－4</b>		生活指導の充実			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
生徒の内面から学校生活を豊かにしようとする姿勢を育む		Hyper-QU、ふれあい月間のアンケートにおけるいじめ発生件数	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
いじめの早期発見・対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Hyper-QUにおける侵害行為認知群10%以下</li> <li>・学級生活不満足群15%以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・hyper-QUを活用し、いじめの早期発見に努め、発生したいじめについては「いじめ防止基本方針」に基づく校内「いじめ防止対策委員会」を中心に、全校で組織的にその解決にあたる。</li> <li>・生徒会活動や学級活動を通して、生徒自らの手でいじめを抑止しようとする態度を育てる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		

体罰根絶	体罰発生件数0	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じて教職員の服務に関する研修を繰り返し、生徒の内面に届く指導ができるようにさせる。そのために必要な研修を意図的・計画的に実施する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自己評価の際に記入</div>
------	---------	---	---

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

### (3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。  
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。